

日本国際連合学会第 19 回 (2017 年度) 研究大会プログラム  
共通テーマ：国際秩序の変容と国連の役割

ヨーロッパでは、排外主義や反自由貿易を掲げるポピュリズムが台頭し、アメリカでは自国第一主義を唱えるトランプ政権が誕生した。反国際主義の流れに直面する国際社会において、国連が果たせる、果たすべき役割は何か、そしてそこで突き付けられる課題は何か。また、昨今の国際情勢を踏まえたうえで、国連研究に従事する者は国連の何を、どのようにとらえるべきか。2017 年度の研究大会は、「国際秩序の変容と国連の役割」を共通テーマに、これらの問題を考える場としたい。

日時：2017 年 7 月 8 日 (土) 10:00~18:00 (受付開始：9:30)

会場：大阪大学豊中キャンパス 豊中総合学館 講義室 501 (豊中キャンパス地図の 8 番)

受付：講義室 501 前

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 (連絡先：jauns2013@gmail.com)

(阪急電車宝塚線 石橋駅より東へ徒歩 20 分、または大阪モノレール：柴原駅より徒歩 7~15 分)

10:00~10:10 開会挨拶 神余 隆博 (日本国際連合学会理事長、関西学院大学 副学長)

10:10~11:10 << 基調講演 >>

司会： 神余 隆博

基調講演者： 藪中 三十二 (立命館大学 特別招聘教授、元外務次官)

「現下の国際情勢と日本外交」

11:20~13:00 << パネルディスカッション >> 変革期の国連と国際協力の新たなパラダイム

座長： 勝間 靖 (早稲田大学 教授)

パネリスト： 村田 俊一 (関西学院大学 教授)

「国連の視点から」

足立 研幾 (立命館大学 教授)

「NGO の視点から」

菅原 絵美 (大阪経済法科大学 准教授)

「企業の視点から」

横田 洋三 (人権教育啓発推進センター 理事長)

「‘Those who are left behind’の視点から」

13:00~14:30 昼休み 企画・渉外・編集・広報委員会開催

14:30~16:00 << 研究報告 >> 変革期における人道支援の課題

司会： 山本 慎一 (香川大学 准教授)

報告： 上野 友也 (岐阜大学 准教授)

「人道支援と安全保障——誰が誰を何からどのように守るのか」

川口 智恵 (JICA 研究所 研究員)

「紛争影響下における人道救援と開発の連続的实施—南スーダン事例からの  
考察—」

討論： 米川 正子 (立教大学 特定課題研究員)

16:10～17:25 <<若手独立報告>>

司会： 吉村 祥子 (関西学院大学 教授)

報告： 秋山 肇 (国際基督教大学大学院)

「国際社会における無国籍の予防:国際法の視点を通して」

高澤 洋志 (東京大学大学院)

「R2P 概念をめぐる議論の『三つの系譜』—正戦/介入論、ガバナンス  
論、紛争予防論」

中村 長史 (東京大学 特任研究員)

「出口戦略の歴史的考察—武力行使の変貌がもたらす撤退の変容—」

17:30～18:00 総会

18:15～20:00 懇親会 於：食堂「宙（そら）」(豊中キャンパス地図の 82 番「学生交流棟」1階)

❖ 会員以外の方にも傍聴いただけます。事前申し込みの必要はありませんので、当日受付で傍聴料  
1,000 円をお支払いください。